

2003 年度 工学部都市環境システム学科 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TE001001	都市環境システムセミナー	2.0	1 年前期金曜 4 限	都市環境全教官	都 A 3
TY016001	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	宮崎 清	都 A 4
TY017001	図学演習	2.0	1 年前期金曜 2 限	釜池 光夫他	都 A 5
TY017003	図学演習	2.0	1 年前期水曜 3 限	(田中 修一) 他	都 A 6
TE002001	都市環境システム学外演習	2.0	1 年通期集中	(小黒 利昭)	都 A 6
TE003001	都市環境基礎演習 I	2.0	1 年後期木曜 4 限	(石渡 強治) 他	都 A 7
TF129301	構造力学 I A	2.0	1 年後期月曜 3 限	高橋 徹	都 A 7
TF129401	構造力学 I B	2.0	1 年後期月曜 3 限	上杉 英樹	都 A 8
TF129501	構造演習 I A	2.0	2 年	高橋 徹	都 A 8
TF129601	構造演習 I B	2.0	2 年	大山 宏	都 A 9
TF074001	材料力学	2.0	2 年前期水曜 1 限	大山 宏	都 A 10
TF075001	材料力学演習	2.0	2 年前期水曜 2 限	大山 宏	都 A 11
TE004001	プログラミング言語	2.0	2 年前期木曜 4 限	池田 宏明	都 A 12
TE005001	プログラミング演習	2.0	2 年前期木曜 5 限	池田 宏明	都 A 12
TE006001	ネットワーク基礎 I	2.0	2 年前期火曜 4 限	須貝 康雄	都 A 13
TG094002	回路理論 I	2.0	2 年前期金曜 4 限	天沼 克之	都 A 13
TE012001	都市環境共生 I	2.0	2 年前期水曜 3 限	青柳 象平	都 A 14
TE007001	都市情報計画 I	2.0	2 年前期水曜 5 限	柘植 喜治	都 A 14
TE008001	環境文化論	2.0	2 年前期月曜 5 限	宮崎 清	都 A 15
TE009001	都市環境基礎演習 II	2.0	2 年前期木曜 3 限	(峯田 建) 他	都 A 15
TE010001	情報システム I	2.0	2 年後期水曜 3 限	深澤 敦司	都 A 16
TE011001	信頼性システム設計 I	2.0	2 年後期月曜 2 限	山崎 文雄	都 A 16
TE042501	都市環境デザイン	2.0	2 年後期水曜 6 限	北原 理雄	都 A 17
TE014001	都市環境システム演習 I	2.0	2 年後期木曜 3 限	(黒田 潤三) 他	都 A 17
TE045201	構造力学 II	2.0	2 年後期金曜 4 限	近藤 吾郎	都 A 18
TE013001	環境社会学	2.0	2 年後期集中	(原口 弥生)	都 A 18
TZ051001	工学倫理	2.0	2 年後期月曜 5 限	堀田 明博	都 A 19
TE017001	環境経済学	2.0	3 年前期木曜 2 限	倉阪 秀史	都 A 20
TE015001	都市居住計画	2.0	3 年前期金曜 3 限	小林 秀樹	都 A 21
TE016001	都市防災科学	2.0	3 年前期水曜 3 限	中井 正一	都 A 22
TE018001	都市環境困 I	2.0	3 年前期水曜 2 限	前野 一夫	都 A 22
TE019001	通信環境システム I	2.0	3 年前期水曜 4 限	伊藤 公一	都 A 23
TE020001	マルチメディア論	2.0	3 年前期月曜 3 限	塩田 茂雄	都 A 23
TE043001	都市建築デザイン	2.0	3 年前期木曜 6 限	宇野 求	都 A 24
TE022001	都市環境システム演習 II	2.0	3 年前期木曜 5 限	(阿部 彰) 他	都 A 24
TE023001	都市環境システム特別セミナー I	2.0	3 年前期集中	都市環境全教官	都 A 25
TZ021001	応用数学 I	2.0	3 年前期集中	(今井 仁司)	都 A 26
TE024001	都市環境システム実習	2.0	3 年通期集中	都市環境全教官	都 A 26
TE025101	プロジェクト研究 A	2.0	3 年通期集中	都市環境全教官	都 A 27
TE044001	都市空間計画	2.0	3 年後期木曜 6 限	村木 美貴	都 A 27
TE029501	基礎地盤工学	2.0	3 年後期水曜 3 限	中井 正一	都 A 28
TE042001	地域環境デザイン	2.0	3 年後期火曜 3 限	三国 政勝	都 A 28
TE028001	環境制度論	2.0	3 年後期木曜 2 限	倉阪 秀史	都 A 29
TE029001	都市計画マネジメント I	2.0	3 年後期月曜 4 限	(原 昭夫)	都 A 30
TE030001	環境基礎解析 I	2.0	3 年後期火曜 6 限	腰越 秀之	都 A 30
TE031001	システム評価	2.0	3 年後期火曜 4 限	塩田 茂雄	都 A 31
TE032001	生産再生設計論 I	2.0	3 年後期火曜 5 限	小倉 裕直	都 A 31
TE034001	専門英語 II	2.0	3 年後期月曜 5 限	(Jack Leaver)	都 A 32
TE034002	専門英語 II	2.0	3 年後期月曜 5 限	(Jane Goldstone)	都 A 32
TE035002	都市環境システム演習 III	2.0	3 年後期土曜 1 限	(小川 晃一)	都 A 33

2003 年度 工学部都市環境システム学科 シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TE035003	都市環境システム演習 III	2.0	3 年後期土曜 4 限	(小川 晃一)	都 A 33
TE035004	都市環境システム演習 III	2.0	3 年後期木曜 5 限	(前田 英寿) 他	都 A 34
TE035005	都市環境システム演習 III	2.0	3 年後期月曜 7 限	都市環未定	都 A 34
TE033001	複雑系概論	2.0	3 年後期集中	(松下 貢)	都 A 35
TE036001	コミュニティエンジニアリング I	2.0	4 年後期土曜集中	(鈴木 直人)	都 A 35
TE037001	地球環境システム論	2.0	4 年前期木曜 4 限	(内山 茂久)	都 A 36
TE038001	都市環境マネジメント I	2.0	4 年前期水曜 3 限	(塩島 壯夫)	都 A 36
TE039001	都市環境システム特別セミナー II	2.0	4 年前期集中	都市環境全教官	都 A 37
TE040101	卒業研究	6.0	4 年通期集中	都市環境全教官	都 A 37

授業科目名 : 都市環境システムセミナー
 科目英訳名 : Seminar: Introduction to Urban Environment Systems
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T018

開講時限等: 1 年前期金曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室, 工 17 号棟 215 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TJ1:都市環境 環境	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境システムの学問を学ぶ人達を対象に、環境プランニングコースやメディアプランニングコースの双方の学問のみならず、広い範囲の学問について、勉学の方法や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、学びつつ考察して行く。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[備考] 4月に履修のためのガイダンスを行うので掲示に注意すること

授業科目名 : 造形演習
 科目英訳名 : Design Aesthetics(Lab.)
 担当教官 : 宮崎 清
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T2C1

開講時限等: 1 年前期火曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF:デザイン A	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TG:電子機械 A	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TI:物質 A	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)
TI1:物質 A 化学 物質化学	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)		
TI2:物質 A 機能 物質機能				専門基礎選択 (E30)		
TJ1:都市環境 環境	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TK2:先進科学プログラムフロンティア	専門基礎選択必修 (E20)					

学科 コース	入学年度
T1:工業意匠 A	1997 年 専門基礎必修 (E10)
T2:建築 A	専門基礎必修 (E10)
T3:機械 A	専門選択 (F30)
T5:電気電子 A	専門基礎必修 (E10)
T7:機能材料 A	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 「造形演習」の個々の課題には、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する演習である。

[講義目的] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学＝ものづくり」に対する関心を高め、その基礎的・潜在的資質が覚醒することを目的としている。具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多様な解の存在を認識する。(3)プレゼンテーション能力を培う。

[講義内容] (1)全体ガイダンスおよびクラス分け、第1課題:「鉛筆による精密描写」の説明、(2)第1課題の演習、(3)第1課題の演習、(4)第1課題の講評、(5)第2課題:「展開図に基づいた立体物の描写」、(6)第2課題の演習、(7)第2課題の講評、第3課題:「大学生活のなかで使う鞆の制作」の説明、(8)第3課題の演習、(9)第3課題の演習、(10)第3課題の講評、第4課題:「飛行体の造形」の説明、(11)第4課題の演習、(12)第4課題の演習、(13)第4課題の講評、(14)総合講評、(15)展示会

[キーワード] 観察・思索、デザイン、手汗想創、プレゼンテーション

授業科目名 : 図学演習
 科目英訳名 : Descriptive Geometry
 担当教官 : 釜池 光夫, 長尾 徹, 田内 隆利
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T2C7
 開講時限等: 1 年前期金曜 2 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF:デザイン A	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TJ1:都市環境 環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

学科 コース	入学年度
T1:工業意匠 A	1997 年 専門基礎必修 (E10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 空間を把握し、操作、表現する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のため、基礎的図法の理論の学習と演習を行う。授業は二部構成とし、第一部は平行投影図法、第二部は中心投影図法からなる。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[履修条件] 作業用具が必要となる。

[教科書・参考書] 研究室で編集したテキストを用いる。

授業科目名 : 図学演習
 科目英訳名 : Descriptive Geometry
 担当教官 : (田中 修一), 田山 茂夫
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T2C8
 開講時限等: 1 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 10-412 製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF:デザイン A	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TJ1:都市環境 環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

学科 コース	入学年度
T1:工業意匠 A	1997 年 専門基礎必修 (E10)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 製図の基礎となる図法を学び、実際に自分で作図して製図図法の理解を深める。

[講義目的] 製図用具の使用方法から始まり、デザインの思考展開および伝達手段として必要な 3 次元空間表示のための基礎的図法の理論の学習と演習を行う。

[講義内容] 線と文字の演習、平面図学、立体図学、正投影図法、等測図法、陰影図法、一消点透視図法、二消点透視図法、簡単な設計課題等

[キーワード] 図法

[履修条件] 製図用具が必要となる

[教科書・参考書] 建築とデザインのための図形科学、培風館。建築立体図法、技術書院

授業科目名 : 都市環境システム学外演習
 科目英訳名 : Field Seminar in Urban Environment Systems
 担当教官 : (小黒 利昭)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T019
 開講時限等: 1 年通期集中
 講義室 : 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ1:都市環境 環境						専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 各地の都市開発プロジェクト、まちづくり、建築施工現場、歴史的町並み、古建築などを実際に見学し、その結果を発表・討論することによって、都市環境に対する理解を深める。

[講義内容] まず、1~2 回の講義を通して建物や都市がどのように計画・設計・建設されるのかを学ぶ。ついで、事前説明で与えられた課題に沿って、実際の建物の施工現場、都市インフラ施設、地域開発プロジェクト、街並みなどを調査・観察し、報告書を作成する。なお、事例は年度により異なる。

[キーワード]

[備考] 授業日程等の詳細については学科掲示板を参照のこと

授業科目名 : 都市環境基礎演習 I
 科目英訳名 : Basic Design of Urban Environment I
 担当教官 : (石渡 強治), (川井 由寛)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01A

開講時限等: 1 年後期木曜 4 限
 講義室 : 工 都市環境システム学科 演習室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 初歩的な都市環境の課題について建築的 / 都市デザインあるいはエンジニアリングの発想を育て、構想し、まとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

授業科目名 : 構造力学 I A
 科目英訳名 : Structural Mechanics IA
 担当教官 : 高橋 徹
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0FB

開講時限等: 1 年後期月曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 207 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1996 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ						専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)	
TF4:デザイン A 建築	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	
TG:電子機械 A						専門選択必修 (F20)		

[授業の方法] 講義

[講義概要] 建築構造物を設計するための入り口にあたる授業として、静定構造物を取り上げ、それらにかかる荷重・外力のモデル化と構造物に生じる応力や変形状態について概説する。

[講義目的] 建築物にはそれ自身の重量と積載物の重量の他に、積雪による重量と風圧力さらには地震などによる外力と外乱が作用する。これらに対して安全な構造物を作るため、柱や梁にどのような力が作用して、どのように変形するかを知るための力学すなわち構造力学を学習する。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス, 構造力学の必要性, 第 2 回 外力と構造物のモデル化, 第 3 回 構造物を支える力, 第 4 回 断面に働く力 1 (軸力), 第 5 回 トラス構造物 1, 第 6 回 トラス構造物 2, 第 7 回 断面に働く力 2 (せん断力と曲げモーメント), 第 8 回 梁にかかる力 1, 第 9 回 中間試験, 第 10 回 梁にかかる力 2, 第 11 回 梁にかかる力 3, 第 12 回 静定フレーム 1, 第 13 回 静定フレーム 2, 第 14 回 静定フレーム 3, 第 15 回 期末試験

[キーワード] 外力, 静定構造物, 応力, 梁, 軸力, せん断力, 曲げモーメント

[受講対象] デザイン工学科建築系 1 年生

[履修条件] 構造力学 IA と構造演習 IA は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造力学 IB・構造演習 IB と同一であるので、構造力学 IB・構造演習 IB の履修は不要である。

[教科書・参考書] 構造力学向けの教科書は多数販売されているので、講義がある程度進行してから書店で手にとって確かめるのが望ましい。

[関連科目] 建築の構造, 構造力学演習 IA

[備考] IA と IB のクラス分けは名簿に従い、年度当初に発表する。

授業科目名 : 構造力学 I B
 科目英訳名 : Structural Mechanics IB
 担当教官 : 上杉 英樹
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0FC
 開講時限等: 1 年後期月曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 力の釣合によって、外力を受ける建築物の支点反力と柱・梁などに生じる内力を知ることにある。

[講義内容] 第 1 回: 講義概要・建築構造の形と単純化・構造三原則・外力と耐力 第 2 回: 力と矢印・一点に作用する力の合成分解・幾つかの点に作用する力の合成 第 3 回: 平行な力の合成・示力図と連力図・偶力
 第 4 回: 偶力・力のモーメント(回転力)・力の平行移動・力の釣合式 第 5 回: 梁材・片持ち梁・曲げモーメントと剪断力と荷重の関係・変形・曲率 第 6 回: 梁材・単純梁・曲げモーメントと剪断力と荷重の関係・変形・曲率 第 7 回: 骨組・門型ラーメン・曲げモーメント・剪断力・軸力 第 8 回: 骨組・三ピン構造・曲げモーメント・剪断力・軸力 第 9 回: トラス架構・ピン節点・ピン支点・軸力のみ 第 10 回: 中間試験 第 11 回: トラス架構・King-Post・ゼロ部材 第 12 回: トラス架構の示力図による解法 (Cremona の図解法) 第 13 回: トラス架構の示力図による解法 (Ritter の切断法) 第 14 回: トラス架構の変形 (Williot の方法, 仮想仕事法) 第 15 回: 期末試験

[キーワード] 力の釣合い, ラーメン, トラス

[履修条件] 構造力学 IB と構造演習 IB は一体であり、両者の受講を原則とする。

[教科書・参考書] 参考書: 田中, 高梨, 宇田川: 建築骨組の力学(基礎編), 東洋書店: ¥2680

[備考] [蛇足] 直感(ヤマ勘)が先。絵を描く。図が先。式は後。コンピューターを見抜け! 鉛筆を動かす事、即ち、帳面を汚す事。

授業科目名 : 構造演習 I A
 科目英訳名 : Seminar on Structural Mechanics IA
 担当教官 : 高橋 徹
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0FD
 開講時限等: 2 年
 講義室 : 工 9 号棟 207 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)			T2:建築 A	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ					専門選択 (F30)			
TF4:デザイン A 建築	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		

[授業の方法] 演習

[講義概要] 力の釣合い式を用いて、建築物を支える柱・梁に生ずる応力と柱・梁の限界耐力に対する理解を深める。
 講義「構造力学 IA」で学習した内容について、練習問題を解き小レポートにまとめることで理解を深める。

[講義目的] 力の釣合い式を用いて、建築物を支える柱・梁に生ずる応力と柱・梁の限界耐力に対する理解を深める。

[講義内容] 構造力学 IA で学習した内容について、練習問題を解き小レポートにまとめることで理解を深める。

[キーワード] 構造力学, 静定構造

[履修条件] 構造力学 IA と構造力学演習 IA は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造力学演習 IB と同一であるので、構造力学演習 IB の履修は不要である。

[教科書・参考書] 教科書: 基礎シリーズ 建築構造力学入門, 藤本盛久, 和田章 監修, 実教出版

[備考] 毎時間ごとの小レポート(A4 版用紙 1 枚)の提出をもって出席とする(10 回以上の小レポートの提出が単位認定の最低条件である)。本演習には、A4 版レポート用紙、簡単な数値計算のできるもの(関数電卓やポケットコンピュータなど)を必ず持参すること。

授業科目名 : 構造演習 I B
 科目英訳名 : Seminar on Structural Mechanics IB
 担当教官 : 大山 宏
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: TOFE
 開講時限等: 2 年
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TF4:デザイン A 建築	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 力の釣合によって、外力を受ける建築物の支点反力と柱・梁などに生じる内力を知ることにある。

[講義内容] 第 1 回: 講義概要・建築構造の形と単純化・構造三原則・外力と耐力 第 2 回: 力と矢印・一点に作用する力の合成分解・幾つかの点に作用する力の合成 第 3 回: 平行な力の合成・示力図と連力図・偶力
 第 4 回: 偶力・力のモーメント(回転力)・力の平行移動・力の釣合式 第 5 回: 梁材・片持ち梁・曲げモーメントと剪断力と荷重の関係・変形・曲率 第 6 回: 梁材・単純梁・曲げモーメントと剪断力と荷重の関係・変形・曲率 第 7 回: 骨組・門型ラーメン・曲げモーメント・剪断力・軸力 第 8 回: 骨組・三ピン構造・曲げモーメント・剪断力・軸力 第 9 回: トラス架構・ピン節点・ピン支点・軸力のみ 第 10 回: 中間試験の解答 第 11 回: トラス架構・King-Post・ゼロ部材 第 12 回: トラス架構の示力図による解法 (Cremona の図解法) 第 13 回: トラス架構の示力図による解法 (Ritter の切断法) 第 14 回: トラス架構の変形 (Williot の方法, 仮想仕事法) 第 15 回: 期末試験の解答

[キーワード]

[履修条件] 構造力学 IB と構造演習 IB は一体であり、両者の受講を原則とする。

[教科書・参考書] 参考書: 田中, 高梨, 宇田川: 建築骨組の力学 (基礎編), 東洋書店: ¥2680

[備考] [蛇足] 直感(ヤマ勘)が先。絵を描く。図が先。式は後。コンピューターを見抜け! 鉛筆を動かす事、即ち、帳面を汚す事。

授業科目名 : 材料力学
 科目英訳名 : Strength of Materials
 担当教官 : 大山 宏
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0B8
 開講時限等: 2 年前期水曜 1 限
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度		
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年	1995 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築 A	専門必修 (F10)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)				

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 構造力学 I では、単純構造物の反力、応力（軸力、曲げモーメント、剪断力）を力の釣り合いから求めた。引き続き、材料力学では、応力により生ずる変形を考慮し、構造部材の断面内の応力度分布、構造物の変形などの基礎を主題とする。これらを基礎にして、構造力学 II では、より実用的な骨組構造物の解析手法が与えられる。

[講義内容] 第 1 回 材料力学の基礎概念：基本仮定・伸び・縦歪・横歪・曲げ・垂直歪・剪断歪 第 2 回 歪と応力：軸力・曲げモーメント・剪断力・垂直応力・剪断応力・モールの応力円 第 3 回 断面の特性係数（1）：断面 1 次モーメント・重心・断面 2 次モーメント・平行軸定理・断面係数 第 4 回 断面の特性係数（2）：断面極 2 次モーメント・断面 2 次半径・断面相乗モーメント・断面主軸・モールの慣性円 第 5 回 材料の力学的性質：応力-歪図・弾性限・降伏点・引張強さ・弾性係数・ヤング係数・剪断弾性係数・ポアソン比
 第 6 回 各種の応力を受ける材（1）：断面内の垂直応力分布・軸力・曲げモーメント・応力の組み合わせ
 第 7 回 各種の応力を受ける材（2）：断面内の剪断応力分布・長方形断面・円形断面・薄肉断面・H 形断面
 第 8 回 <中間試験> 受験条件：なし。（解答レポート提出。）（教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。）
 第 9 回 梁の変形（1）：撓み曲線式・弾性曲線式・共役梁法・弾性荷重法・モールの定理
 第 10 回 梁の変形（2）：ミオンチスの片持梁公式の誘導・応用
 第 11 回 梁の変形（3）：不静定梁・一端固定+他端ローラー・両端固定・連続梁 第 12 回 静定トラスの応力と変形：クレモナ図・ウィロー変位図・モール回転変位図 第 13 回 静定ラーメンの応力と変形：ミオンチスの片持梁公式の応用 第 14 回 曲線材：アーチ梁・曲がり梁 第 15 回 <試験> 受験条件：なし。（後日、解答レポート提出。）（教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。）
 <演習ノート提出> 試験終了後に回収。後日返却。 第 16 回 <追試 1> 受験条件：なし。（なお、この時点では成績評価未了。）
 第 17 回 <追試 2> 受験条件：前回まで試験の完全解答レポートの事前提出。

[キーワード]

[履修条件] 無

[教科書・参考書] [教科書] 嶋本恒雄 / 相川三郎 編「建築学小事典 第 4 版」理工学社 1994 ￥3000+ : 本書では、基本的で実用的な解法・例題などを順を追って丁寧に説明している。講義・演習では、根拠・誘導を十分説明し、学生の納得の行くまで質疑応答したい。この講義・演習での利用範囲は、わずかに (p. 3 - 8) ~ (p. 3 - 39) である。 [参考書] 高橋幸伯・町田進 共著「基礎 | 材料力学 改訂版」培風館 1999 ￥2500+ : 本書の初版は、10年間、教科書として用いた。せめて序文くらいは覗いてみてほしい。本書では、ところどころに建築実務と異なる表現がある。その点は注意して読んでほしい。

[備考] [演習ノート] 大学ノート (B5判): 演習の評価資料。試験後提出。後日返却。ルースリーフ式・スパイラル綴じ式のノートは望ましくない。 [教材] プラスチック定規 2 本 (長さ 20 cm 程度のもの): 単独あるいは貼り合わせて「曲げを加えて梁の変形、軸を押して柱の座屈」を実感しよう。 [電卓] 数式処理・グラフ関数電卓 (TI 92, HP 49, Casio, Sharp など): 数学の苦手意識を克服するために電卓を使い、数学を勉学・遊びの道具にしよう。

授業科目名 : 材料力学演習
 科目英訳名 : Seminar on Strength of Materials
 担当教官 : 大山 宏
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0B9

開講時限等: 2 年前期水曜 2 限
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

学科 コース	入学年度		
	1997 年	1996 年	1995 年
T2:建築 A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 構造力学 I では、簡単構造物の反力、応力（軸力、曲げモーメント、剪断力）を力の釣り合いから求めた。引き続き、材料力学では、応力により生ずる変形を考慮し、構造部材の断面内の応力度分布、構造物の変形などの基礎を主題とする。これらを基礎にして、構造力学 II では、より実用的な骨組構造物の解析手法が与えられる。

[講義内容] 第 1 回 材料力学の基礎概念：基本仮定・伸び・縦歪・横歪・曲げ・垂直歪・剪断歪 第 2 回 歪と応力：軸力・曲げモーメント・剪断力・垂直応力・剪断応力・モールの応力円 第 3 回 断面の特性係数 (1)：断面 1 次モーメント・重心・断面 2 次モーメント・平行軸定理・断面係数 第 4 回 断面の特性係数 (2)：断面極 2 次モーメント・断面 2 次半径・断面相乗モーメント・断面主軸・モールの慣性円 第 5 回 材料の力学的性質：応力-歪図・弾性限・降伏点・引張強さ・弾性係数・ヤング係数・剪断弾性係数・ポアソン比
 第 6 回 各種の応力を受ける材 (1)：断面内の垂直応力分布・軸力・曲げモーメント・応力の組み合わせ
 第 7 回 各種の応力を受ける材 (2)：断面内の剪断応力分布・長方形断面・円形断面・薄肉断面・H 形断面
 第 8 回 < 中間試験 > 受験条件：なし。(解答レポート提出。)(教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。)
 第 9 回 梁の変形 (1)：撓み曲線式・弾性曲線式・共役梁法・弾性荷重法・モールの定理 第 10 回 梁の変形 (2)：ミオソチスの片持梁公式の誘導・応用 第 11 回 梁の変形 (3)：不静定梁・一端固定 + 他端ローラー・両端固定・連続梁 第 12 回 静定トラスの応力と変形：クレモナ図・ウィロー変位図・モール回転変位図 第 13 回 静定ラーメンの応力と変形：ミオソチスの片持梁公式の応用 第 14 回 曲線材：アーチ梁・曲がり梁 第 15 回 < 試験 > 受験条件：なし。(後日、解答レポート提出。)(教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。)

[キーワード]

[履修条件] 無

[教科書・参考書] [教科書] 嶋本恒雄 / 相川三郎 編「建築学小事典 第 4 版」理工学社 1994 ¥3000+ : 本書では、基本的で実用的な解法・例題などを順を追って丁寧に説明している。講義・演習では、根拠・誘導を十分説明し、学生の納得の行くまで質疑応答したい。この講義・演習での利用範囲は、わずかに (p. 3 - 8) ~ (p. 3 - 39) である。 [参考書] 高橋幸伯・町田進 共著「基礎 | 材料力学 改訂版」培風館 1999 ¥2500+ : 本書の初版は、10 年間、教科書として用いた。せめて序文くらいは覗いてみてほしい。本書では、ところどころに建築実務と異なる表現がある。その点は注意して読んでほしい。

[備考] [演習ノート] 大学ノート (B5 判) : 演習の評価資料。試験後提出。後日返却。ルースリーフ式・スパイラル綴じ式のノートは望ましくない。 [教材] プラスチック定規 2 本 (長さ 20 cm 程度のもの) : 単独あるいは貼り合わせて「曲げを加えて梁の変形、軸を押して柱の座屈」を実感しよう。 [電卓] 数式処理・グラフ関数電卓 (TI 92, HP 49, Casio, Sharp など) : 数学の苦手意識を克服するために電卓を使い、数学を勉強・遊びの道具にしよう。

授業科目名 : プログラミング言語
 科目英訳名 : Computer Programming Languages
 担当教官 : 池田 宏明
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01B

開講時限等: 2 年前期木曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 213 教室, メディア基盤センター
 実習室 2

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 電子計算機に所定の機能を発揮させるための一連の手続きをあらかじめ指定するためのプログラミング言語の考え方について概観し、具体的なプログラミング言語として C 言語を取り上げ、その仕様と文法を教授する。

[講義目的] 電子計算機は我々の生活に密着した道具として定着している。しかし、電子計算機に新しい機能を持たせたり、合目的に機能を拡充するためには、あらかじめプログラムを書かなければならない。そのために一般的な、また高機能なプログラミング言語である C 言語を取り上げ、講義と演習とを連携して受講することによって、学習者には電子計算機とのコミュニケーション手段である C 言語を習得させることを目的とする。

[講義内容] 1) コンピュータシステム操作の導入 2) vi editor の機能

- 3) 簡単な C プログラムの作成と実行 4) C 関数の学習
5) 独自作成 C 関数設計

[キーワード] C language, programming, vi, unix

[教科書・参考書] 柏原監訳：独習 C 第 3 版，翔泳社 (2002-09)

[備考] この授業の後に行なうプログラミング演習と同時に履修すること。

授業科目名 : プログラミング演習
 科目英訳名 : Computer Programming Practice
 担当教官 : 池田 宏明
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01C

開講時限等: 2 年前期木曜 5 限
 講義室 : メディア基盤センター実習室 2

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ				専門選択 (F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン				個別科目 (C14)		
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門必修 (F10)

[授業の方法] 演習

[講義概要] プログラミング言語は人工言語であるが、自然言語と同様に実際に使用しないと身につかない。この観点から C 言語の仕様・文法の修得に併せて、具体的な問題を設定してそれに対するプログラミングを実習する。

[講義目的] 電子計算機は我々の生活に密着した道具として定着している。しかし、電子計算機に新しい機能を持たせたり、合目的に機能を拡充するためには、あらかじめプログラムを書かなければならない。そのために一般的な、また高機能なプログラミング言語である C 言語を取り上げ、演習と講義とを連携して受講することによって、学習者には電子計算機とのコミュニケーション手段である C 言語を習得させることを目的とする。

[講義内容] 1) コンピュータシステム操作の導入 2) vi editor の使い方 3) 簡単な C プログラムの作成と実行 4) C 関数の使い方 5) 独自作成 C 関数の作り方

[キーワード] C language, programming, vi, unix, computer

[履修条件] 「情報処理」を履修しておくこと。この授業は、木曜のプログラミング言語と対をなす演習である。

[教科書・参考書] 柏原監訳：独習 C 第 3 版，翔泳社 (2002-09)

授業科目名 : ネットワーク基礎 I
 科目英訳名 : Network Fundamentals I
 担当教官 : 須貝 康雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01D
 開講時限等: 2 年前期火曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ				専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] ネットワークの基礎として、グラフ理論を学ぶ。グラフの定義、平面グラフ、最短経路問題、最大フロー問題、線形計画問題、組合せ問題等について具体例と共に解説する。

[講義内容] 下記 URL を参照のこと

[キーワード] グラフ, ネットワーク, 最大フロー, 最短経路, 線形計画

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 樋口龍雄 監修, 佐藤公男 著:グラフ理論入門-C 言語によるプログラムと応用問題, 日刊工業新聞社

授業科目名 : 回路理論 I
 科目英訳名 : Electric Circuit Theory I
 担当教官 : 天沼 克之
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T17C
 開講時限等: 2 年前期金曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		専門選択 (F30)	TC:電気電子 B	専門必修 (F10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ			専門選択 (F30)					
TG:電子機械 A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ:都市環境 B	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				
TK:先進科学プログラム						専門選択必修 (F20)		
TK2:先進科学プログラムフロンティア	専門選択必修 (F20)							

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 電気回路の基本的な考え方, 表現方法, 解析方法及び物理的現象の意味などの電気電子工学の基礎知識を学習する。さらに, 専門科目「回路理論 I 演習」を履修して, 演習問題を繰り返し解くことによってこれら基礎知識の理解を一層深め, 電気的センスを身に付けることを目的とする。

[講義内容] まず, 直流回路における電圧, 電流, 電力の物理的意味, 直並列接続, オームの法則, キルヒホッフの法則などの基礎知識を学ぶ。続いて, 交流回路における電圧, 電流の定義, インダクタとキャパシタの働き, インピーダンスとアドミタンスの概念を理解し, 交流回路の複素数表現について学ぶ。さらに, 網目解析法, 節点解析法, 電気回路の諸定理を学ぶことにより線形回路の解析法を習得し, 最後に, 三相交流の概念を学ぶ。

[キーワード]

[履修条件] 微分, 積分, 三角関数, 行列などの基礎知識があればよい。

[教科書・参考書] 「入門電気回路」斉藤制海、天沼克之、早乙女英夫共著、朝倉書店

授業科目名 : 都市環境共生 I
 科目英訳名 : Eco-compatible Engineering
 担当教官 : 青柳 象平
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T023
 開講時限等: 2 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 人類のみならず、他の生物にとっても好ましい地球環境、都市環境を持続させるため、多くの課題がある。これらを考える上で、生物の機構を知ることが重要である。化学的視点から主に生物の営みに着目して考える。

[講義目的] 「都市環境共生」とは、都市環境における「共生」を意味する…と、この講義では考えている。「共生」を実現するのは実は非常に困難であり、まず「環境」を考えることから、この高い目標への糸口を掴んでいただければ幸いである。

[講義内容] 第 1 回 共生とはなにか 第 2 回 生物の特徴 第 3 回 たんぱく質の構造 第 4 回 核酸の構造
 第 5 回 タンパク質の機能 第 6 回 核酸の機能 第 7 回 主たる代謝経路 第 8 回 前半試験 第 9 回 生命の誕生と進化第 10 回 生物圏における物質の循環第 11 回 環境ホルモン第 12 回 オゾン層の破壊第 13 回 CO₂ と地球温暖化第 14 回 持続的 생활への取り組み第 15 回 後半試験

[キーワード] 環境, 共生, 生命活動, 環境汚染, 環境保全

[教科書・参考書] 特になし

授業科目名 : 都市情報計画 I
 科目英訳名 : Urban Environment Produce I
 担当教官 : 柘植 喜治
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01E
 開講時限等: 2 年前期水曜 5 限
 講義室 : 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ				専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 私たちは、都市環境のなかで遭遇するさまざまな事象や刺激を選択的に受容しながら、それぞれの生活を送っています。この授業では、それらの事象や刺激を情報という概念で把握し、安全で快適な都市生活環境における情報のあり方、そのデザイン手法について、具体的事例を紹介しながら、考察します。

[講義内容] 第 1 回 都市の情報とは、第 2 回 都市を体験する、第 3 回 都市を感じる(見る、嗅ぐ、味わう、聞く、触る)、第 4 回 都市を記憶する、第 5 回 都市を観察する、第 6 回 都市を調べる、第 7 回 都市を表す、第 8 回 都市の価値をみつける、第 9 回 都市に溢れる、第 10 回 都市で見せる・隠す、第 11 回 都市で演じる、第 12 回 都市を動かす、第 13 回 都市を楽しむ、第 14 回 都市をプロデュースする、第 15 回 まとめ・小論文

[キーワード]

[履修条件] 特になし

授業科目名 : 環境文化論
 科目英訳名 : Theory of Urban Design
 担当教官 : 宮崎 清
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T01F

開講時限等: 2 年前期月曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン				その他 (Z99)	専門選択 (F30)	
TG:電子機械 A				専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 地域社会における生活および生活空間の成り立ちの諸原理とその変容過程を地域社会の類型ごとに観察する。地域社会の生活環境の多様な諸相の立体的な把握・解析を通して、地域社会における生活・空間デザインのあり方を論ずる。

[講義目的] 生活を取り巻く環境には、さまざまな問題が顕在化している。それらの諸問題に関する歴史的・比較文化的考察を踏まえながら、望ましい生活環境の創造に向け、私たちが実践していくべき課題ならびに方法論を学習する。

[講義内容] (1) 文化としての環境、(2) 今世紀における環境問題、(3) 日本の伝統文化と環境、(4) 日本の伝統的空間概念(結界)、(5) 日本の物質文化創生と環境、(6) 日本の伝統的社会における空間演出、(7) 伝統的造形文化の継承と創新、(8) 熊沢蕃山の環境哲学、(9) 地域の環境アイデンティティ、(10) 伝統的生活文化と伝統的技術、(11) 地域資源を活かした環境デザイン、(12) 地産池消の環境デザイン、(13) 地域社会の環境デザインマネジメント、(14) 環境デザインにおける適正技術論、(15) 21 世紀の世界像と生活像

[キーワード] デザイン、生活、文化、地域、環境

[履修条件] 特にありません。

[教科書・参考書] 授業の進行にあわせ、授業のなかで紹介します。

授業科目名 : 都市環境基礎演習 II
 科目英訳名 : Basic Design of Urban Environment II
 担当教官 : (峯田 建), 森永 良丙
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T020

開講時限等: 2 年前期木曜 3 限
 講義室 : 未定(工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ1:都市環境 環境						専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境基礎演習 I に引き続き、建築/都市デザインあるいはエンジニアリングについて構想、企画し、計画を定め、環境として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

授業科目名 : 情報システム I
 科目英訳名 : Information Systems I
 担当教官 : 深澤 敦司
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T021
 開講時限等: 2 年後期水曜 3 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[講義概要] ・通信と情報、・情報源、・情報源の符号化、・通信路の符号化（初歩）、・誤り訂正符号（初歩）、・連続量と情報（PCM 符号化の原理）

[講義目的] 情報・通信システムの基礎として C.E.Shannon の理論を学ぶ。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[履修条件] 予習は不要ですが、出席重視します。教科書は必ず入手して下さい。

[教科書・参考書] 情報・符号理論入門 橋本 清 森北出版

授業科目名 : 信頼性システム設計 I
 科目英訳名 : Reliability Systems Design Engineering I
 担当教官 : 山崎 文雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T022
 開講時限等: 2 年後期月曜 2 限
 講義室 : 工 17 号棟 215 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ					専門選択 (F30)	
TJ:都市環境 B	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 複雑なシステムが正常に機能する性質（信頼性）を定量的に評価するための基礎的理論とその応用について講義を行う。機械・構造システム分野と電気電子システム分野の信頼性工学を統合した内容であり、基礎的な数学の知識があれば内容を理解できる自己完結型の講義である。基礎的な内容が中心であるので、教科書に準拠して講義を進める。

[講義目的] 確率・統計理論を基礎として、さまざまなシステムを設計、製造し、指定された期間にわたって正常に、安全に、経済的に運用するための理論・手法の修得を目指す。

[講義内容] (1) 信頼性と信頼性工学, (2) 信頼性の基礎数理, (3) 信頼性データの統計的解析, (4) システムの信頼性, (5) 故障モードの同定, (6) 機械・構造物の信頼性工学, (7) モンテカルロ・シミュレーション, (8) 保全性とアベイラビリティ, (9) 信頼性管理

[キーワード] 故障, 安全性, 信頼性, 保全性, システム, 確率分布, モンテカルロ法, 破損モード

[受講対象] ; ;

[履修条件] 統計学 B を履修していることが望ましい。

[教科書・参考書] 「システム信頼性工学」, 室津義定ほか, 機械システム入門シリーズ 7, 共立出版, 3000 円, 1996 年 (購入することが望ましい。)

[備考] 講義日程: (1)2003 年 12 月 8 日 (月)(2)2003 年 12 月 15 日 (月)(3)2003 年 12 月 22 日 (月)(4)2004 年 1 月 5 日 (月)(5)2004 年 1 月 19 日 (月)(6)2004 年 1 月 26 日 (月)(7)2004 年 1 月 29 日 (木)(8)2004 年 2 月 2 日 (月)(9)2004 年 2 月 4 日 (月)(10)2004 年 2 月 9 日 (月) 試験

授業科目名 : 都市環境デザイン
 科目英訳名 : Urban Environment Design
 担当教官 : 北原 理雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T045

開講時限等: 2 年後期水曜 6 限
 講義室 : 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 都市空間の解読方法, およびその計画・デザインに関わる基本的アプローチを講義し, レポート課題で都市空間の把握・分析に取り組む。

[講義目的] むびとの生活の場である都市環境を的確に読み解き, そのあるべき姿を構想する力を身につけてもらうことが, この講義の目的である。都市空間のさまざまな特性と社会との相関, それを成り立たせている仕組みなどを, 具体的な事例にもとづいて考察する。

[講義内容] 1. 都市への眼差し(街並みをつくる建築, 都市空間の組み立て, 広場とは何か?, 見える秩序/見えない秩序) 2. 住まいと都市空間(環境を内包する住まい, 共通性と柔軟性, 街並みと住まい) 3. 都市の骨格(都市空間の計画方法, 都市空間の骨格と中身, 柔軟な骨格) 4. 広場と街路(広場の伝統, 街路の文化, 人間のための都市空間) 5. 見る環境と体験する環境(地形原理と幾何学原理, 位相空間の原理, 生きられる場所)

[キーワード] 都市空間, 都市景観, 街並み, 街路, 広場

[受講対象] 受講者が都市空間の基本的把握・表現能力を備えていることを前提に講義を行うので, 2 年次以降の受講が望ましい。

[履修条件] 「都市環境基礎演習 I・II」など, 空間の把握・図面表現に関する基礎的科目を履修していることが望ましい。

[教科書・参考書] S. E. ラスムッセン: 都市と建築, 東京大学出版会(参考書) G. カレン: 都市の景観, 鹿島出版会(参考書) J. ゲール: 屋外生活の生活とデザイン, 鹿島出版会(参考書)

[備考] レポートと出席を主体に成績評価を行う(水準に達しないレポートは再提出)。オンラインシラバスの講義室の記載は 9/26 に変更済み。

授業科目名 : 都市環境システム演習 I
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems I
 担当教官 : (黒田 潤三), (鈴木 俊男), 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T025

開講時限等: 2 年後期木曜 3 限
 講義室 : 工 17 号棟 214 教室, 工 17 号棟 215 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] (環境プランニング) 都市・環境・建築のデザイントレーニングを通じて, 都市空間を構想, 企画し, 計画を定め, 総合的デザインにまとめあげていく方法を学ぶ。(メディアプランニング) 都市における情報ネットワークシステムや環境基盤システムの学習に必要な, 各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。

[講義内容] 次の 4 つのテーマに分かれて演習を行う。AE1. 都市空間・施設の調査・提案 AE2. 環境問題および材料力学 AE3. 電気基礎実験 AE4. 数理解習

[キーワード]

[履修条件] (AE1, AE2) は, 都市環境基礎演習 I, II を履修していること。(AE3, AE4) は, 微分方程式, 統計学, 力学, 電磁気学, フーリエ解析を履修していることが望ましい。

授業科目名 : 構造力学 II
 科目英訳名 : Structural Mechanics II
 担当教官 : 近藤 吾郎
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T048

開講時限等: 2 年後期金曜 4 限
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 構造力学、材料力学で学んだ力学に関する基礎知識を発展させ、より具体的な構造的知識の応用力を養う。

[講義目的] トラス構造やラーメン構造の部材の変形状態や部材内部のより詳細な力の流れを把握するとともに、構造物としての構造特性を理解する。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

授業科目名 : 環境社会学
 科目英訳名 : Environmental Sociology
 担当教官 : (原口 弥生)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T024

開講時限等: 2 年後期集中
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TH1:情報画像 A 情報工学						専門選択 (F30)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境社会学についての基本的構想と研究の概要について理解することがこの講義の目的である。環境と環境問題に関する具体的事例を取り上げながら、環境社会学の視点からどのような研究と分析が行われてきたのか、さらには問題解決に向けてどのような方法論が模索されているのかを考察する。

[講義内容] (1) イントロダクション (フレデリック・バック、地球となかよくしよう) (2) 環境問題とエコシステム (エレン・リチャーズ、レイチェル・カーソン) エコロジーの誕生、環境教育のルーツ (3) 環境問題の構造 チェルノブイリ・水俣病 (4) 環境と環境問題の研究 環境社会学の視点から (水俣) (5) 開発か環境か 環境は誰が決めるのか (あらかわ、諫早湾) (6) 環境ボランティア 市民参加のまちづくり (市民研究活動) (7) 環境的公正、環境正義 環境思想 (8) 環境問題における差別の構造 ジェンダー 人口問題、環境ホルモン (9) 身近な環境問題 ライフスタイルを変える

[キーワード]

[履修条件] 特になし

[備考] 平成 16 年 2 月 9 日、10 日、12 日に集中講義

授業科目名 : 工学倫理
 科目英訳名 : Engineering Ethics
 担当教官 : 堀田 明博
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T2CC

開講時限等: 2 年後期月曜 5 限
 講義室 : 総 B

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TF1:デザイン A デザイン		専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ		専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン		専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TF4:デザイン A 建築		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TG:電子機械 A		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH:情報画像 A		専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH1:情報画像 A 情報工学		専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH3:情報画像 A 画像材料工学		専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	選択必修 A 群 (F29)	選択必修 A 群 (F29)
TH4:情報画像 A 画像システム工学		専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	選択必修 A 群 (F29)	選択必修 A 群 (F29)
TI:物質 A		その他 (Z99)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TI1:物質 A 化学 物質化学		その他 (Z99)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TI2:物質 A 機能 物質機能		その他 (Z99)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TI3:物質 A 物性 物質物性		その他 (Z99)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ:都市環境 B	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ1:都市環境 環境	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

学科 コース	入学年度		
	1997 年	1996 年	1995 年
T1:工業意匠 A	専門基礎選択必修 (E20)		
T3:機械 A		専門選択 (F30)	
T4:情報 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
T5:電気電子 A	その他 (Z99)		
T8:画像 A	選択必修専門 I 類 (F26)	選択必修専門 I 類 (F26)	選択必修専門 I 類 (F26)
TB:情報 B	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TD:画像 B	選択必修専門 I 類 (F26)	選択必修専門 I 類 (F26)	選択必修専門 I 類 (F26)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 工学は、科学・技術のさまざまな成果を活かし、我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学である。しかし、その使用の方向、利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ、ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では、社会との関係における工学者の使命、規範、役割、権利と義務等について広範な視点から論述する。

[講義目的] (記述なし)

[講義内容] < 日程とテーマ・講師 > 1. 10月6日(月) ガイダンス(堀田 明博 工学部) 2. 10月20日(月) 職能倫理としての工学倫理(土屋 俊 千葉大学文学部) 3. 10月27日(月) 工学倫理の特徴(忽那 敬三 千葉大学文学部) 4. 11月10日(月) 倫理とは(高橋 久一郎 千葉大学文学部) 5. 11月17日(月) 工学者の高齢者・障害者への対応(市川 薫 工学部) 6. 12月1日(月) ネットワーク倫理(島倉 信 メディア基盤センター) 7. 12月8日(月) エネルギー産業と環境倫理(町田 基 工学部) 8. 12月15日(月) 組織における工学者の倫理(深澤 教司 工学部) 9. 12月22日(月) 生命(医学)倫理の特性と歴史(田邊 政裕 千葉大学医学部附属病院) 10. 1月5日(月) 技術者の知的所有権等財産的権利(1)(三中英治 共同研究推進センター) 11. 1月19日(月) 技術者の知的所有権等財産的権利(2)(三中英治 共同研究推進センター) 12. 1月26日(月) 製造物責任(PL)法(1)(小賀野 晶一 千葉大学法経学部) 13. 1月29日(木) 製造物責任(PL)法(2)(小賀野 晶一 千葉大学法経学部) 14. 2月2日(月) 技術者の倫理と国際化(野口 博 工学部) 15. 2月4日(水) 簡単なレポート及びアンケート(渡部 武弘 工学部) (注) 講師のご都合により順番、内容に関して変更する場合があります。

[キーワード]

[履修条件] 対象学生 2~4 年次、受入人数 250 名、各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし、表示がない場合は各学科担任に確認して下さい。

[備考] 開講場所は総合校舎 B 号館、履修登録期間:平成 15 年 10 月 1 日~10 月 14 日(各自 Web により工学部システムで登録する)

授業科目名 : 環境経済学
 科目英訳名 : environmental and ecological economics
 担当教官 : 倉阪 秀史
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T028

開講時限等: 3 年前期木曜 2 限
 講義室 : 工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TG:電子機械 A			専門選択 (F30)			
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 環境と経済の関係を理解するとともに、経済学が環境問題をどのように取り扱ってきたのかを把握し、環境の保全と経済の発展を両立させていくための理論と政策について検討する。

[講義目的] 地球環境問題は、人間の経済活動が有限な地球という環境の限界に立ち至ったことを示している。市場での自由競争を旨とする経済システムを維持しながら、経済活動に伴う環境への負荷の総体を環境の限界の範囲内に抑制していくことはできるのだろうか。このような問題意識を持ちながら、環境と経済とのかかわりを経済的に考えていくこととしたい。

[講義内容] 第1講 環境と人間の関係第2講 環境を守るとは第3講 環境の限界 I 人口爆発と資源基盤第4講 環境の限界 II 技術的対応と政策的対応第5講 経済学の批判的検討 I 「土地」はどこにいったか第6講 経済学の批判的検討 II 「物」はどこにいったか第7講 主流派環境経済学 I 新古典派経済学の環境問題観 / 価格調整 / 数量調整第8講 主流派環境経済学 II 自由市場派 / 環境の価値の貨幣評価第9講 物質的アプローチ第10講 環境経済政策の方向性成績は、小レポートの提出回数及び期末試験によって評価する。小レポート提出回数が7割に達しない場合には単位は与えない。

[キーワード] 環境経済学, 環境の限界, エコロジカル経済学

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 倉阪秀史『環境を守るほど経済は発展する』(朝日選書) + プリント配布

[備考] 上記講義室は「試験のための場所」で、通常の講義は総合校舎 B 号館で行ないます。過去の講義のレジュメなどは、<http://www.hh.ij4u.or.jp/~kurasaka> を参照。

授業科目名 : 都市居住計画
 科目英訳名 : Urban Housing
 担当教官 : 小林 秀樹
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T026

開講時限等: 3 年前期金曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン					専門選択 (F30)	
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	
TG:電子機械 A				専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 集まって住むことが「わずらわしい」状況をこえて、「楽しい」集住のハ・ド(空間構成)とソフト(コミュニティ形成)の統合はいかにして可能かについて考え、実践への志を高めることが本講義のねらいである。
 <生活の力>と<空間の力>の相互浸透関係のデザインの内実を示す生きのよい事例の視覚的伝達とそれをもとにした対話的授業を目指す。

[講義内容] 講義計画: 1. ハウジングとコミュニティ / 2. 近代化過程におけるハウジング概念と手法の成立 / 3. 住宅地計画における私・共・公の相互関係 / 4. サステナブル・ハウジング / 5. パートナシップ方式のハウジング / 6. 子どもの目線からの住まい・環境づくり / 7. 住み手参加のデザイン・プロセス / 8. 高齢社会における住環境 / 9. これからの都市居住計画の展望

[キーワード]

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 延藤安弘:「集まって住むことは楽しいナ 住宅でまちをつくる」鹿島出版会(教科書)
 「これからの集合住宅づくり」晶文社(参考書)

授業科目名 : 都市防災科学
 科目英訳名 : Disaster Prevention in Urban Environment
 担当教官 : 中井 正一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T027
 開講時限等: 3 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 都市の安全を脅かす災害のうち、地震と地震災害の特色を理解するとともに、地震時における建造物の挙動を理解し、耐震設計・防災計画の考え方を学ぶ。

[講義目的] 都市の安全を脅かす要因として地震などの自然災害による建造物・地盤の被害を取り上げ、それぞれの発生メカニズムがどのようなものであるかを理解すると共に、これらの災害による被害を最少限に食い止めるための方法論の基礎を学ぶ。自然災害として地震を取り上げ、発生や伝播のメカニズム、振動理論の基礎、耐震設計の考え方、防災計画などについて講義する。

[講義内容] 第 1 部：地震と地震災害（第 1 回：講義概要、地震被害の事例 / 第 2 回：地震の発生 / 第 3 回：地震と地震動 / 第 4 回：地震と地形・地盤）第 2 部：振動の理論（第 5 回：運動方程式 / 第 6 回：建造物のモデル化 / 第 7 回：1 質点系の振動 (1) / 第 8 回：中間テスト / 第 9 回：1 質点系の振動 (2) / 第 10 回：1 質点系の振動 (3) / 第 11 回：多質点系の振動 / 第 12 回：地盤の振動と建造物の振動）第 3 部：耐震設計と地震防災（第 13 回：耐震設計 / 第 14 回：地震防災 / 第 15 回：期末テスト）

[キーワード] 地震、被害、振動理論、耐震設計、地震防災

[履修条件] 力学や材料力学の知識を有することが望ましい。

[教科書・参考書] 理工図書：地震と建築防災工学（主参考書）鹿島都市防災研究会編：大地震と都市災害（参考書）守屋喜久夫：新編地震災害と地盤・基礎（参考書）ほか

[関連科目] 都市環境システム演習 I

[備考] 出席点（ミニテスト）、中間テスト、期末テストにより成績評価を行う

授業科目名 : 都市環境エネルギー論 I
 科目英訳名 : Urban Environment Energetics I
 担当教官 : 前野 一夫
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T029
 開講時限等: 3 年前期水曜 2 限
 講義室 : 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境						専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] エネルギーに関する工学的な基礎事項と、その都市環境における諸問題について理解を深めることが、この講義の目的である。まず、エネルギーと環境の問題についての展望を示し、流体と熱の流れに関する基礎と応用について考察する。

[講義内容] 1. エネルギーとは？ 2. 流れと流体、静止した流体の諸特性 3. 流体の流れを支配する基礎法則 4. 管の中の流れと管路システム 5. 川の流れ、地下水の流れ、水波 6. 地球大気の動き、気象 7. 流れから受ける力、抗力と揚力、推進力 8. 熱の流れを支配する基礎法則 9. 固体内の熱の流れ - 熱伝導 10. 固体壁と流体間の熱の流れ - 熱伝達 11. 流体の移動に伴う熱の流れ - 自然対流 12. 流体の移動に伴う熱の流れ - 強制対流 13. 電磁波による伝熱 - 熱放射 *途中試験を行う

[キーワード]

授業科目名 : 通信環境システム I
 科目英訳名 : Communication Environment Systems I
 担当教官 : 伊藤 公一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T02A

開講時限等: 3 年前期水曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境						専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 移動通信や情報ネットワーク等の急速な発達により、都市を取り巻く通信環境・電磁環境はダイナミックに変化し、複雑化している。本講義では、主に無線、すなわち電波を用いた通信環境システムの基礎を講義する。具体的には、都市における電波環境、無線通信の基礎である電波の発生、伝送および受信、そして我々の身のまわりにある無線通信システムの特色、問題点、および将来について講義する。

[講義内容] [1] イントロダクション(講義の主旨, 進め方, 成績評価方法など) [2] 電波応用の種類(情報伝送, 探査・観測, エネルギー利用) [3] 電波応用の具体例と問題点(携帯電話 / PHS, BS, カーナビ, 無線 LAN, 電子レンジなど) [4] 電波の発生・放射(電波の性質, 発生・放射) [5] 質問・ディスカッション・演習 [6] ~ [8] 電波の伝搬・伝送 / 受信(アンテナの種類・特性, 電波の伝搬, 受信) [9] 情報伝送の基本技術(変調, 放送など) [10] 質問・ディスカッション・演習 [11] 移動通信(特徴, 技術など) [12] 移動通信(代表的システム) [13] 電磁環境 [14] 将来動向 / まとめ / 質問 [15] 試験

[キーワード]

[履修条件] 物理学 CI 電磁気学入門 1、物理学 CII 電磁気学入門 2 を履修していることが望ましい。

授業科目名 : マルティメディア論
 科目英訳名 : Multimedia systems
 担当教官 : 塩田 茂雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T02B

開講時限等: 3 年前期月曜 3 限
 講義室 : 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 文字・静止画・動画・音声・音楽などの様々な形態の情報(マルチメディア)を, ネットワークで相互通信するための技術(マルチメディア通信技術)の基礎を解説する。

[講義目的] コンピュータネットワーク, インターネット, マルチメディア技術の背景, 歴史(現在)中心的に用いられている技術等を一通り学ぶことにより「ネットワーク技術」の全体像を把握し, 将来, ネットワークアーキテクト, ネットワーク設計者, アドミニストレータなど, ネットワークの設計と実装に関わる技術者をを目指すための素地を身に付ける。

[講義内容] 情報と帯域, アナログ情報のデジタル化, 通信・放送の仕組み, インターネットアーキテクチャー, 通信プロトコル, OSI 参照モデル, 光ファイバ技術, データリンク層技術(Ethernet, PPP), TCP/IP, DNS, WWW, トラヒック技術, 音声・画像符号化技術, 等

[キーワード] 通信, インターネット, TCP/IP, WWW, 音声・画像符号化

[教科書・参考書] 教科書はなし。参考図書:「マルチメディア情報ネットワーク」村田正幸(共立出版),「マスタリング TCP/IP(入門編)」竹下隆史他(オーム社),「H323/MPEG4 教科書」大久保榮, 川島正久(IE インスティテュート)。

[関連科目] 情報システム I/II, ネットワーク基礎 II, メディアプランニング演習 II(情報通信演習), システム評価

授業科目名 : 都市建築デザイン
 科目英訳名 : Urban Architectural Design
 担当教官 : 宇野 求
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T046
 開講時限等: 3 年前期木曜 6 限
 講義室 : 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T1:工業意匠 A	1997 年 専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ				専門選択 (F30)				
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン				専門選択 (F30)				
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)			
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ2:都市環境 メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 現代建築および現代都市のデザインについて、古今東西の事例を具体的にとりあげながら紹介し、そのクリティカルなテーマおよび手法の基本的な考え方についてレクチャーを行っていきます。

[講義内容] 第 1 回 イントロダクション / 建築と都市 第 2 回 建築と都市の型 / 形式、様式、装飾 第 3 回 素材 / 自然要素 (光・風・水)、装置 (家具と機械) 第 4 回 次元 / 空間の役割 (機能) 第 5 回 変わる部分と変わらない部分 / プライベートとパブリック 第 6 回 情報の空間 第 7 回 現代生活の型と建築 第 8 回 規模の計画 第 9 回 新しい施設の型 第 10 回 地域空間における建築の計画とデザイン 第 11 回 建築群のデザイン 第 12 回 情報社会における空間機能 第 13 回 ガラス建築 / 自動車と建築 第 14 回 自然と人工物 / 物質と光 第 15 回 まとめ

[キーワード]

[履修条件] なし

[教科書・参考書] テキスト:「あたらしい建築計画」宇野求, 彰国社参考書 : 適宜, 紹介していきます。

[備考] 講義計画の内容を具体的な建築と都市のスライドで解説していきます。

授業科目名 : 都市環境システム演習 II
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems II
 担当教官 : (阿部 彰), (丸山 純), (丸田 誠), (石出 忠輝), (福田 傑), 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T02D
 開講時限等: 3 年前期木曜 5 限
 講義室 : 工 17 号棟 213 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための具体的な問題に基づいた演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。<P> メディアプランニング系の班 (AE3, AE4) は専門科目に関連するテーマについて各実験室において実験をメニューに基づき選択受講し、都市環境システムの「流れ」の重要な要素である環境物理化学、生物学、電磁気学、エネルギー学、騒音問題、熱流体力学等に関する実際的・基礎的学力を身につける。<P> なお、授業開始前のガイダンスに必ず出席すること。

[講義内容] 環境プランニング系の班は、都市の場とシステムを作ってゆくための具体的な問題に基づいた演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。<P> メディアプランニング系の班 (AE3, AE4) は次の 7 テーマより 4 テーマをメニューにて選択し受講する。1) 水質計測実験、2) 環境微生物実験、3) 電磁気基礎実験、4) 風況データ収集と風力開発システム設計、5) 騒音計測実験、6) 流体計測、7) 熱流体計測実験。<P> なお、各テーマによって、時間がかかる場合は 2 3 コマの集中講義形式の時間配分となる可能性がある。<P> 授業開始前のガイダンスに必ず出席すること。

[キーワード]

[教科書・参考書] メディアプランニング系の実験には「実験の手引」を配布する。

授業科目名 : 都市環境システム特別セミナー I
 科目英訳名 : Special Sminar in Urban Environment Systems I
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T02E

開講時限等: 3 年前期集中
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境						専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 集中講義

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境システムの学習を進める上で、重要と思われるトピックスについて実務として活躍している学外講師による入門・解説・応用の講座である。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[履修条件] なし

[備考] 平成 15 年度開講日時: 8 月 4 日(月) ~ (予定), 場所: 自然科学研究科・大会議室, 詳細は都市環境システム学科掲示板及びメーリングリスト参照のこと

授業科目名 : 応用数学 I
 科目英訳名 : Advanced Engineering Mathematics I
 担当教官 : (今井 仁司)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T2C9
 開講時限等: 3 年前期集中
 講義室 : 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TF1:デザイン A デザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TG:電子機械 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH:情報画像 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH1:情報画像 A 情報工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH3:情報画像 A 画像材料工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TH4:情報画像 A 画像システム工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TI:物質 A	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI1:物質 A 化学 物質化学	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI2:物質 A 機能 物質機能	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI3:物質 A 物性 物質物性	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TJ1:都市環境 環境	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)
TK2:先進科学プログラムフロンティア	専門選択 (F30)					

学科 コース	入学年度			
	1997 年	1996 年	1995 年	1994 年
T2:建築 A	専門基礎選択 (E30)			
T4:情報 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 数値計算法の方法のうち、差分法、有限要素法、境界要素法について講義する。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[備考] 開講教室、開講日時等の詳細については、教務係窓口付近の掲示板を参照して下さい。開講日：7月30日(水)～8月2日(土)

授業科目名 : 都市環境システム実習
 科目英訳名 : Practice in Urban Environment Systems
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T02F
 開講時限等: 3 年通期集中
 講義室 : 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ1:都市環境 環境						専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境の形成にかかわる実社会の現場において一定期間(2週間以上)実習を経験し、その知見から得た方法について報告書を作成し発表を行う。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

授業科目名 : プロジェクト研究A
 科目英訳名 : Project Study A
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T030

開講時限等: 3 年通期集中
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 学生自身が社会生活の中で遭遇した各種の課題を自ら提案し、その課題について個人またはグループによる研究や討論を行う。社会的な問題の提議とそれを考究して行く姿勢や方法を学ぶことが、この科目の目的である。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[備考] 履修を希望する場合は必ず担任に申し出ること。過去に行った内容・テーマは関連 URL を参照のこと。単位取得には、1 年間の研究内容の発表 (年度末) が義務付けられる。

授業科目名 : 都市空間計画
 科目英訳名 : Urban Space Planning
 担当教官 : 村木 美貴
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T047

開講時限等: 3 年後期木曜 6 限
 講義室 : 工 17 号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 現代の都市空間、及び都市型プロジェクトがどのような仕組みの上に成り立ち、また良好な都市空間の形成、まちづくりのためにどのようなルールが必要となるのかを具体的に講義する。

[講義目的] 現代の都市をつくりだしている都市計画、土地利用、まちづくり、都市型プロジェクトの仕組みについて理解することを目的としている。

[講義内容] 1) イントロダクション 2) 開発制御の方法 3) 都市計画と土地 4) 私権の制限と土地利用規制 5) 都市開発への公的関与 (1) 6) 都市開発への公的関与 (2) 7) 再開発 8) 密集市街地の再整備 9) 都市再生 10) 官民の協力 11) 郊外型住宅地の実際 - ニュータウン 12) 郊外型開発規制と中心市街地 13) サステナビリティと開発 14) 不動産 15) 予備

[キーワード] 都市計画、土地利用、開発規制、まちづくり

[教科書・参考書] 参考書: 都市と生活空間の工学 (阪本一郎) 放送大学都市計画教科書 (都市計画教育研究会編) 彰国社、住環境を整備する (住環境の計画編集委員会編) 彰国社

授業科目名 : 基礎地盤工学
 科目英訳名 : Foundation Engineering
 担当教官 : 中井 正一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T033

開講時限等: 3 年後期水曜 3 限
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 地盤とはどんなもので、どのような性質を持っているかを理解する。また、そのような地盤の上に構造物を建設するには、どのような基礎をいかに設計すればいいのかを理解する。

[講義目的] 全く空中に浮いた建物が無いことから分かるように、建物と地盤を切り離して考えることはできない。したがって、建物が安全であるためにはその建物がどのような地盤の上に建てられているかを把握することが大切である。この講義では、まず地盤の性質を理解し、ついで建物と地盤の接点である基礎構造について学ぶ。なお、授業では、理解を助けるために必要に応じて簡単な演習問題を出題する。

[講義内容] 第 1 部:土質力学の基礎(第 1 回:講義の概要、地震被害・地盤災害の事例、地形と地盤/第 2 回:土の組成と工学的分類/第 3 回:地盤調査/第 4 回:地盤中の応力/第 5 回:土中の水流/第 6 回:土の圧縮性と粘土の圧密/第 7 回:土のせん断強さ/第 8 回:中間テスト)第 2 部:基礎構造の計画と設計(第 9 回:土圧、基礎構造計画/第 10 回:極限土圧/第 11 回:浅い基礎(1)/第 12 回:浅い基礎(2)/第 13 回:杭基礎(1)/第 14 回:杭基礎(2)/第 15 回:期末テスト)

[キーワード] 地盤、土質力学、基礎構造、設計

[履修条件] 材料力学を履修していることが望ましい

[教科書・参考書] 桑原文夫: 地盤工学、森北出版(教科書)

[備考] 出席、演習、中間テスト、期末テストにより成績評価を行う

授業科目名 : 地域環境デザイン
 科目英訳名 : Regional Environment Design
 担当教官 : 三国 政勝
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T044

開講時限等: 3 年後期火曜 3 限
 講義室 : 工 17 号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)		
TG:電子機械 A				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 人間-環境の基本的とらえ方、農村集落の特性や整備方法、高齢者・障害者の生活環境の改善、千葉県を中心とした環境問題への取り組みなど。

[講義目的] 近代科学の方法は、細かく分割された対象のそれぞれの枠の中での精緻な分析が中心になっているが、まちづくり、むらづくりなどの取り組みにおいては、環境を総合的に捉え、新しいものを創造するための方法が必要になる。その第一歩は、狭い専門領域に止まることなく、人間や社会に対する幅広い問題意識を持つことである。既に確立している学問知識の獲得よりも、問題の発見とその解決に向かって創意工夫する力を伸ばしたい。

[講義内容] 第 1 回 環境とは何か 認識と存在の哲学的考察 第 2 回 住居と生活の歴史的変遷 第 3 回 農村集落の空間特性 第 4 回 地域環境における共同性 第 5 回 土地利用計画に関する制度 第 6 回 集落地域整備の方法 第 7 回 農業・食料・農村をめぐる諸問題 第 8 回 漁村集落の空間構造 第 9 回 高齢者・障害者の住宅改善 第 10 回 バリアフリーに関する制度 第 11 回 バリアフリーのまちづくり 第 12 回 防災まちづくり-阪神大震災の教訓- 第 13 回 まちづくり・むらづくりの事例 第 14 回 千葉県の環境問題 第 15 回 まとめ

[キーワード] 環境哲学、農村集落、環境計画、バリアフリー、住宅改善

[備考] 上記の予定は、内容、順序を一部変更する可能性がある。

授業科目名 : 環境制度論
 科目英訳名 : environmental laws and policies
 担当教官 : 倉阪 秀史
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T031

開講時限等: 3年後期木曜2限
 講義室 : 工17号棟 214教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン					専門選択 (F30)	
TG:電子機械 A			専門選択 (F30)			
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 環境政策の立案を自ら行えるようになることを目指して、環境政策の歴史、環境政策の基本的事項（基本法、目的、各種原則）、環境政策の諸手法について学ぶこととする。

[講義目的] 環境問題をできる限り回避し最小化するための制度を作り上げていくことが、環境政策の課題である。環境政策は歴史も浅く、環境に関する制度も未だ完成途上にある。本講義では、環境政策の歴史を振り返りつつ、どのような制度が存在し、どのような政策手法が取られているのかを解説することを通じて、受講者の政策立案能力の開発と向上を図ろうとするものである。

[講義内容] 第1講 環境政策論とは何か第2講 環境政策の歴史（その1）江戸～昭和30年代第3講 環境政策の歴史（その2）昭和40年代～現在第4講 都市計画と国土開発政策の歴史第5講 環境基本法第6講 環境政策の目的（目的規定、環境権、持続可能な開発）第7講 対策の実施段階に関する原則（未然防止、予防、源流対策、I P P C）第8講 対策の実施主体に関する原則（その1：汚染者負担原則、拡大生産者責任）第9講 対策の実施主体に関する原則（その2：設計者責任、公的負担）第10講 政策の実施主体に関する原則（補完性原則、協働原則）第11講 計画の策定と目標の設定第12講 対策を実施させるための手法（その1：計画的手法、規制的手法）第13講 対策を実施させるための手法（その2：情報的手法、促進的手法）第14講 その他の手法（事業的手法、調整的手法）、環境政策手法の選択成績は、小レポートの提出回数及び期末試験によって評価する。小レポート提出回数が7割に達しない場合には単位は与えない。

[キーワード] 環境政策

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 追って指示する

[備考] 上記講義室は「試験のための場所」で、通常の講義は総合校舎B号館で行ないます。過去の講義のレジュメなどは、<http://www.hh.ij4u.or.jp/~kurasaka>を参照。

授業科目名 : 都市計画マネジメント I
 科目英訳名 : City Planning Management I
 担当教官 : (原 昭夫)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T032

開講時限等: 3 年後期月曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境		専門選択必修 (F20)				専門選択必修 (F20)
TJ2:都市環境 メディア メディア						専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 我々をとりまく都市や環境を少しでも住みよいものとしていくために働く、地域づくりのプロとなっていくために、都市の見方、問題の発見、課題解決のための提案ができる力、そして住み手の立場、市民の視点からのまちづくりを実践してゆく力をつちかう。

[講義内容] キーワードは、都市論、人口論、土地利用論、都市施設論、都市政策、都市計画、まちづくり全般、防災まちづくり、都市計画略史、地域論、市民参加、職能論など。原則として講義形式。スライドを用いたレクチャー。もし時間の調節ができれば野外ウォークなども組み入れる。レポートを数回行う。

[キーワード]

[履修条件] 都市や地域やまちの現状に関心があり、その課題の改善に意欲を持っていること。関連する講義(計画、歴史、法規、防災など)をとっておくとよい。

[教科書・参考書] 原昭夫著『自治体まちづくり』(学芸出版社)(千葉大生協で教科書扱い)

授業科目名 : 環境基礎解析 I
 科目英訳名 : Environment Mathematics I
 担当教官 : 腰越 秀之
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T034

開講時限等: 3 年後期火曜 6 限
 講義室 : 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境に現れる緒現象を数理的にとらえるための基礎的資質を養うことを目的に講義する。この講義では、現象を数理的に記述するためのモデリングとその解析方法及び数値計算法について基本的な例を通して考察する。

[講義内容] 次の3つのテーマについて講義する。1. 大気中のばい煙の拡散と健康・環境基準についての考察 2. 現象のモデリングとその数理的考察 3. 数理モデルの解析と数式処理ソフト利用による考察

[キーワード] 拡散現象、数値計算、数式処理

[履修条件] 「微分方程式」、「フーリエ解析」、「統計学」を受講していることが望ましい。

[備考] 成績評価: 講義への出席、レポート、試験を総合的に評価する。

授業科目名 : システム評価
 科目英訳名 : Systems evaluation
 担当教官 : 塩田 茂雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T035
 開講時限等: 3 年後期火曜 4 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TH3:情報画像 A 画像材料工学				専門選択 (F30)		
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] コンピュータシステム、情報ネットワーク等の、現実問題から定式化した様々なシステムの数理モデルを、確率統計、待ち行列理論をベースに、理論的及び数値的に解析し、システム設計等に反映させるための技術について学ぶ。

[講義目的] システム設計、システム評価に対する性能評価技術の数理的な基礎とその応用を紹介し、将来、システム技術者を目指す学生、現実にシステム設計/評価に携わっている社会人が、システム設計/評価に関する、より高度な数学的成果を自分のものとして自由に利用できるようになるための素地を身に付ける。

[講義内容] 確率論（確率変数、期待値、分散、積率母関数、中心極限定理）、確率過程論（再生過程、マルコフ連鎖、マルコフ過程）、待ち行列理論（ケンドールの記号、リトルの公式、ポラチェック・ヒンチンの公式、処理規律、M/M/1 システム）、待ち行列理論の応用例（窓口システム/電話回線/WAN 回線の設計）等。

[キーワード] 通信システム、インターネット、システム数理、確率、統計、待ち行列、性能評価

[教科書・参考書] 教科書はなし。参考図書：「確率モデルの基礎」遠藤靖（東京電気大学出版局）、「混雑と待ち」高橋幸雄、森村英典（朝倉書店）、「性能評価の基礎と応用」亀田・紀・李（共立出版）、「確率と確率過程」宮沢政清（近代科学社）、等。

[関連科目] 統計学 B1 / B2、ネットワーク基礎 I、マルチメディア論

授業科目名 : 生産再生設計論 I
 科目英訳名 : Recycle Engineering I
 担当教官 : 小倉 裕直
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T036
 開講時限等: 3 年後期火曜 5 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 資源・エネルギー問題および環境問題の観点から、エネルギー資源および物質資源のリサイクル有効利用システムの設計に必要な基礎を講義する。特に、物理化学における熱力学、化学工学における移動現象論、単位操作を中心に、リサイクルに必要な技術理論を解説する。

[講義目的] 都市における生産再生（リサイクル）設計に関して、これを化学システムとして捕らえ、それを理解するための基礎科学について学ぶ。エネルギー & マテリアルフローという観点から、熱と物質に関する化学変化、状態変化、移動現象を熱力学と速度論に基づいて修得する。その後、リサイクルに必要な化学工学的操作を修得する。

[講義内容] 第 1 回 化学システムとしての地球環境、資源・エネルギー・リサイクル第 2 回 物理化学の基本、気体、保存則第 3 回 熱力学第一法則とエンタルピー第 4 回 熱力学第二法則とエントロピー第 5 回 相転移、状態図と自由エネルギー第 6 回 反応、平衡、イオン、酸・塩基第 7 回 力学、流れの物質・エネルギー・運動量収支第 8 回 熱移動 - 伝導、対流、輻射第 9 回 物質移動、拡散と分子運動第 10 回 断熱、熱交換、乾燥、調湿第 11 回 蒸発、凝縮、蒸留、吸収、吸着、濾過、集塵第 12 回 化学反応速度論、溶液反応、固相反応第 13 回 プロセス制御、最適化第 14 回 エネルギー・資源のリサイクル第 15 回 試験

[キーワード] 資源・エネルギー、物理化学、化学工学、環境工学、リサイクル、ヒートポンプ、乾燥、粉体

[教科書・参考書] 物理化学、化学工学の基礎的書籍

授業科目名 : 専門英語 II
 科目英訳名 : English for Urban Enviroment Systems II
 担当教官 : (Jack Leaver)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T038

開講時限等: 3 年後期月曜 5 限
 講義室 : 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ:都市環境 B	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 専門英語 I に引き続き、都市環境に関わる英文テキストを講読し、より高度な読解力、表現力、理解力を育てる。

[講義内容] 第一回目にクラス分けを行う。非常勤講師 Leaver 先生の指示により教材決定。

[キーワード]

授業科目名 : 専門英語 II
 科目英訳名 : English for Urban Enviroment Systems II
 担当教官 : (Jane Goldstone)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T039

開講時限等: 3 年後期月曜 5 限
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ:都市環境 B	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 専門英語 I に引き続き、都市環境に関わる英文テキストを講読し、より高度な読解力、表現力、理解力を育てる。

[講義内容] 第一回目にクラス分けを行う。非常勤講師 Wichiens 先生の指示により教材決定。

[キーワード]

[受講対象] ; ;

[備考] ジェーン ゴールドストーン先生の専門英語 II、1 月 29 日木曜日 (月曜日分 13 回目振替) は休講となり、2 月 9 日月曜日に補講を行います。部屋は変更ありません。

授業科目名 : 都市環境システム演習 III
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems III
 担当教官 : (小川 晃一)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T03A

開講時限等: 3 年後期土曜 1 限
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計とエネルギーシステム設計のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[講義内容] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) とエネルギーシステム設計 (省エネルギー手法とその効果算出) のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。各テーマ班によって土曜日集中講義形式、あるいは通常日の 7 または 6, 7 時限を用いて講義と演習を行う。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[キーワード]

[備考] 講義への出席、およびレポートの成績などで評価する。この授業の開講及びガイダンス日時については学科の掲示板に掲示される。

授業科目名 : 都市環境システム演習 III
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems III
 担当教官 : (小川 晃一)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T03B

開講時限等: 3 年後期土曜 4 限
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計とエネルギーシステム設計のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[講義内容] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) とエネルギーシステム設計 (省エネルギー手法とその効果算出) のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。各テーマ班によって土曜日集中講義形式、あるいは通常日の 7 または 6, 7 時限を用いて講義と演習を行う。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[キーワード]

[備考] 講義への出席、およびレポートの成績などで評価する。この授業の開講及びガイダンス日時については学科の掲示板に掲示される。

授業科目名 : 都市環境システム演習 III
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems III
 担当教官 : (前田 英寿), 中井 正一, 近藤 吾郎, 宮脇 勝
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T03C
 開講時限等: 3 年後期木曜 5 限
 講義室 : 工 5 号棟 105 教室, 工 9 号棟 107 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計とエネルギーシステム設計のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[講義内容] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) とエネルギーシステム設計 (省エネルギー手法とその効果算出) のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。各テーマ班によって土曜日集中講義形式、あるいは通常日の 7 または 6, 7 時限を用いて講義と演習を行う。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[キーワード]

[備考] 講義への出席、およびレポートの成績などで評価する。この授業の開講及びガイダンス日時については学科の掲示板に掲示される。

授業科目名 : 都市環境システム演習 III
 科目英訳名 : Seminar in Urban Environment Systems III
 担当教官 : 都市環未定
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T03D
 開講時限等: 3 年後期月曜 7 限
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計とエネルギーシステム設計のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[講義内容] 環境プランニング系の班は都市の場とシステムを作ってゆくための実際的な提案を含む演習を行う。AE1 クラスでは都市空間に関する課題を扱い、AE2 クラスでは環境や構造に関する課題を扱う。メディアプランニング系の班 (AE3,AE4) は情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) とエネルギーシステム設計 (省エネルギー手法とその効果算出) のテーマで 2 班に別れて講義と演習を進める。各テーマ班によって土曜日集中講義形式、あるいは通常日の 7 または 6, 7 時限を用いて講義と演習を行う。授業開始時のガイダンスは必ず出席すること。

[キーワード]

[備考] 講義への出席、およびレポートの成績などで評価する。この授業の開講及びガイダンス日時については学科の掲示板に掲示される。

授業科目名 : 複雑系概論
 科目英訳名 : Introduction to Complex System
 担当教官 : (松下 貢)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T037

開講時限等: 3 年後期集中
 講義室 : 工 17 号棟 特別教室 (都市環境)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TG:電子機械 A					専門選択 (F30)	
TH1:情報画像 A 情報工学						専門選択 (F30)
TH3:情報画像 A 画像材料工学				専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 簡易シラバス (講義概要): 近年、数理学の分野で、線形理論では把握できない現象が多く見られるようになった。講義では、いくつかの現象を例示しながら、カオスやフラクタルなどの概念を導入し、その基本的な考え方を示す。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

授業科目名 : コミュニティエンジニアリング I
 科目英訳名 : Community Engineering I
 担当教官 : (鈴木 直人)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T03F

開講時限等: 4 年後期土曜集中
 講義室 : 工 17 号棟 特別教室 (都市環境)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義と演習

[講義概要] 貧困対策及び地域産業振興手法としての産業クラスター開発手法、目的志向プロジェクト形成手法、伝統工芸品開発手法を講義にて学び、その開発概念を伝統工芸品振興をベースにしたコミュニティ振興に用いる。具体的にはラオスの伝統工芸開発プロジェクトをケーススタディーとしてグループディスカッションを行う。

[講義目的] 近年、途上国の貧困対策は開発の重要課題となっている。小規模工業、家内工業をベースとした伝統工芸品の振興は効果的なコミュニティ振興、貧困対策のひとつの手段として注目を集めている。伝統工芸品振興のための戦略形成、及び、プロジェクト形成を産業クラスター振興、伝統工芸品振興センター設立等の概念を把握することにより、より現実的、実践的に行うことができる事を目的とする。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード] 目的志向プロジェクト形成手法、産業クラスター振興、伝統工芸品振興

授業科目名 : 地球環境システム論
 科目英訳名 : Global Environment Systems
 担当教官 : (内山 茂久)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T040
 開講時限等: 4 年前期木曜 4 限
 講義室 : 工 5 号棟 204 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ					専門選択 (F30)	
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義、実験

[講義概要] 大気における化学物質の動態を理解するための基礎科学を学ぶとともにその測定法と評価法について実験する。実験では、学生自身で空気中の化学物質の捕集・分析を行い、測定の方法、解析方法を解説する。

[講義目的] 環境大気中の化学成分の中で特に人の健康に影響を及ぼす化学物質について、大気中での動態、モニタリング方法を学ぶ。モニタリングに関しては最先端の技術を習得する。

[講義内容] 国と地方自治体の環境大気モニタリングシステム、環境大気中における化学物質の挙動、地球温暖化、オゾン層破壊、環境大気中における化学物質の分析方法、拡散サンプラーによる捕集原理と実測定、測定結果の解析、室内環境における化学物質の挙動、建材から拡散する化学物質、粒度分布の測定

[キーワード] 地球環境、地域環境、室内環境、有害物質、大気モニタリング

授業科目名 : 都市環境マネジメント I
 科目英訳名 : Urban Environment Management I
 担当教官 : (塩島 壯夫)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T041
 開講時限等: 4 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 5 号棟 204 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 21 世紀は「環境の世紀」と言われている。人類社会が健全に地球上に存続することが出来るための選択とは一体何だろうかを、都市空間における市民・企業人・各種団体人の立場で考察する。具体的には、持続可能な開発・ISO-14001 を中心とした環境マネジメントシステム・環境アセスメント・廃棄物問題等について講義並びに学生中心の討議と演習をする。

[講義内容] 1. 「環境の世紀」実現に向けて、2. 持続可能な産業システムへの挑戦、3. 環境マネジメントシステム導入の目的、4. 環境マネジメントシステムとは何か? 5. 初期環境レビュー、6. 環境方針の定義、7. 環境アクションプランの開発、8. 環境責任の定義、9. 環境マネジメントシステムの監査、10. 外部とのコミュニケーション、11. 発電所建設に係わる環境アセスメント、12. ダイオキシン問題、13. 廃棄物処理施設、14,15. 討議と演習用の予備

[キーワード]

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 講義のたびごとに指示

授業科目名 : 都市環境システム特別セミナー II
 科目英訳名 :
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T042
 開講時限等: 4 年前期集中
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 集中講義

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 都市環境システムの学習を進める上で、重要と思われるトピックスについて 実務として活躍している学外講師による入門・解説・応用の講座である。

[講義内容] (記述なし)

[キーワード]

[備考] 平成 15 年度開講せず

授業科目名 : 卒業研究
 科目英訳名 : Graduation Research
 担当教官 : 都市環境全教官
 単位数 : 6.0 単位
 履修登録コード: T043
 開講時限等: 4 年通期集中
 講義室 :

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 学生毎に都市環境システムに関連する研究課題を特定し、十分な体験と理解および新しい知見が得られるように学生の個性と能力に合った個別指導を行う。研究・計画など総合能力を高めることを目的とする。

[講義内容] 各学生は研究室に所属し、各教官から個別に指導を受ける。一年間を通じて主体的なテーマをもって研究・計画を行う。最終的に卒業研究発表会を行い個別に評価される。

[キーワード]